甘える側と甘えられる側から見た甘えの受容の要因

新谷優

(法政大学グローバル教養学部)

キーワード: 甘え・親しさ・ペアデータ

Determinants of Acceptance of Amae from the Perspectives of Requester and Provider

Yu NIIYA

(Hosei University, Department of Global and Interdisciplinary Studies)

Key Words: Amae, close relationship, paired data

目 的

大人の甘えは不適切な言動が含まれる(山口,1999)にも関わらず,人は甘えられるとうれしく感じることがある(Niiya & Ellsworth, 2012; Niiya, Ellsworth, & Yamaguchi, 2006)。Niiya & Harihara (2012)は日本人の成人を対象とした調査で,回答者に「友人から甘えられた出来事」を想起してもらい,その状況についてたずねたところ,甘えられる側は,相手との関係を親しく感じ,甘えを受け入れるか自由に選択できると感じ,甘えを受け入れられるだけの物理的・心的資源があると感じるほど,うれしく感じることが明らかになった。

大人の甘えは,依存とは異なり,相手の立場を押し量りながら巧妙に行われている(Okonogi, 1992)。甘える側は,これらの要因をもとに相手が甘えを受容してくれるか推測しているのだろうか。またその予測はどのくらい的確なのだろうか。本研究では,友人のペアに一方がもう一方に甘えた出来事を特定してもらい,甘える側と甘えられる側双方のデータを集めることで,以下の仮説を検証した。

仮説1: 甘えられる側は,相手に親しさを感じ,自分にコントロール感があり,十分な資源があると感じるほど甘えを受容する。仮説2: 甘える側は,相手が自分に対して親しさを感じ,相手にコントロール感があり,十分な資源があると推測するほど,甘えが受容されると推測する。仮説3: 甘える側が推測する相手の親しさ・コントロール感・資源は,甘えられる側の実際の受容を規定する。

方 法

参加者 「知り合ってから6ヶ月以上の友人と同時に参加すること」を条件に協力者を募り,大学生112名(女性84名)56組のペアが調査に参加した。ペアは知り合ってから平均2年4ヶ月で,相手とどのくらい仲がよいかを1から7の7件法でたずねたところ,平均は5.81($SD=.87$)であった。

手続き 参加者のどちらか一方がもう一方に甘えた出来事を二人で相談して特定させた。甘えの定義は参加者にまかせた。出来事を特定したら,離れて着席させ,「甘える側」または「甘えられる側」の立場から質問紙に回答してもらった。

質問項目 甘えられる側には,「相手の甘えに応じてあげたい気持ちはどのくらいありましたか」(甘え受容),「そのとき,あなたは相手に対してどのくらい親しさを感じましたか」(親しさ),「あなたはそのとき,甘えを受け入れるかどうか自由に決められましたか」(コントロール感),「あなたは,相手の甘えに応えるための十分な時間・体力・資源・能力があったと思いますか」(資源)とたずね,1~7の尺度で回答を求めた。甘える側には,「相手はあなたの甘えに応じたい気持ちはどのくらいあったと思いますか」(甘え受容の推測),「相手はあなたに対してどのくらい親しさを感じていたと思いますか」(親しさの推測),「相手はそのとき,あなたに甘えるかどうか自由に決められたと思いますか」(コントロール感の推測),「相手は,あなたの甘えに応えるための十分な時間・体力・資源・能力があったと思いますか」(資源の推測)とたずねた。

結 果

APIM (Kenny, Kashy, & Cook, 2006)を用いて, Figure 1 のような相互影響のプロセスを検討した。甘えられる側は,相手に親しさを感じるほど甘えを受容していた。同様のモデルでも,甘えられる側のコントロール感と資源は有意に甘えの受容を予測しており(.32*, .46*), 仮説1を支持する結果となった。一方,甘える側は,相手が自分に対して親しさを感じていると推測するほど,また,相手に資源があると推測するほど,甘えが受容されると推測しており(.69*, .31*), 仮説2を支持する結果となった。しかし,仮説3とは反対に,甘える側が相手からの親しさと資源を高く見積もるほど,甘えられる側の受容は低下することも明らかになった(-.28*, -.23*)。また,甘える側が推測する相手のコントロール感,甘えの受容の推測も,実際の受容も有意に予測しなかった(.11, -.14)。

Figure 1. 甘える側と甘えられる側から見た親しさと甘えの受容のモデル (数値は標準化係数)

考 察

甘える人は,相手が甘えを受容してくれるかどのように推測しているのか,ペアデータを用いて検証した。過去の知見(Niiya & Harihara, 2012)と同様に,本研究でも甘えられる側は,相手に親しさを感じ,コントロール感があり,十分な資源があるほど甘えを快く受け入れていることが確認できた。甘える側は,相手が自分に対して親しく感じているか,資源があるか推測し,それをもとに,甘えが受容してもらえるか推測しており,甘える側も同じ心理モデルを想定して予測していることがうかがえた。しかし,その推測とは裏腹に,甘える側が相手からの親しさと相手の資源を高く見積もるほど,実際の甘えの受容は低下しており,双方に複雑な駆け引きがあることが浮き彫りになった。甘えられる側のコントロール感が受容の重要な要因であることを考えると,甘える側が過度な期待をもつと,甘えられる側は自分のコントロール感が阻害されると感じ,受容しにくくなるのかもしれない。

引用文献

- Niiya, Y. & Harihara, M. (2012). Relationship closeness and control as determinants of pleasant amae. *Asian Journal of Social Psychology*, 15, 189-197.
Okonogi, K. (1992). Amae as seen in diverse interpersonal interactions. *Infant Mental Health Journal*, 13, 18-25.
山口勲 (1999). 日常語としての甘えから考える 北山修 (編) 甘えについて考える 星和書店 pp. 31-46.